

本誌編集長
山本 稔

豊明市長

小浮 正典

駅前駐輪場リニューアルで進化 魅力高まる 愛知県豊明市のまちづくり

【プロフィール】

小浮 正典(こうき まさふみ)

1969年大阪府大阪市生まれ 1992年京都大学経済学部卒業、朝日放送株式会社入社、1997年2月退職 1997年8月米国ピッツバーグ大学公共・国際問題専門大学院入学、1999年8月卒業 2000年3月～2001年9月株式会社朝日新聞社 2001年11月～2003年6月東京メトロポリタンテレビジョン株式会社 2004年4月～2010年5月立命館大学法科大学院 2006年10月～2012年5月イオン株式会社 2012年8月17日～2015年2月12日豊明市副市長 2015年4月30日～豊明市長

趣味：京都大学時代は相撲部主将。現在も大相撲中継のチェックを欠かさない。名古屋場所開催時、豊明市内に宿舍を置く西岩部屋にはよく稽古の見学に向かう。

「豊明(とよあけ)市」。1972年(昭和47年)、名古屋市南部に隣接した場所に誕生した、愛知県30番目の市である。市内には織田信長が歴史の表舞台へと躍り出た「桶狭間古戦場伝説地」(国指定)や、競馬ファンにおなじみの「JRA中京競馬場」のほか、今なお多くの史跡が残る鎌倉街道も走っている。

その豊明市において、昨年2022年10月1日に、公益財団法人 自転車駐車場整備センターが運営する大規模な駅前駐輪場がオープンした。しかも豊明市内の3駅一斉のリニューアルである。市営の駅前駐車場の駐輪場への転換や無料駐輪場の有料化、既存の無料駐車場の廃止など、さまざまな施策を同時進行し、市内の駐輪環境を一新。豊明市は名古屋市のベッドタウンのひとつであり、自転車で名鉄名古屋本線の市内3駅に向かう市民が多い。それだけに、通勤・通学の利便性が大幅に改善した今回のリニューアルは、概ね高評価を得ているという。

今号の対談ゲストは、この施策を牽引した豊明市長・小浮正典(こうき まさふみ)氏。自転車施策もさることながら、そのユニークなキャリアを活かした市政運営の数々をお聞きすることができ、充実の60分間となった。

収録：2023年1月24日
聞き手：本誌編集長 山本 稔

東日本大震災をきっかけに政治の道を歩み始めた

山本 プロフィールを拝見致しまして(前ページ下部参照)、率直に、大学卒業後の10数年から政治家への道筋が見えづらいという感想を抱きました。豊明市副市長へ就任するまでの経緯を教えてくださいませんか。

小浮 大変よく受ける質問です(笑)。大学を出て入った朝日放送、その後の朝日新聞は、どちらかというと政治家を批判するスタンスのメディアであり、実は



「桶狭間古戦場伝説地」がある豊明市。桶狭間の戦いでわずか3,000の織田信長が、25,000の今川義元の大軍を破ったことにちなみ、2016年より「大金星のまちとよあけ」をコンセプトに各種観光PRを展開している

私自身もそういう考え方を持っていました。私の就職時はバブル期で、ある意味就活は非常にラクだったんですね。5年で退社し、アメリカで学んだ後、帰国しまして、日本でまた就職を…となったところ、日本はバブル期から一転、就職氷河期に突入していたんです。何とか朝日系列の朝日新聞社に拾っていただきましたが、テレビから活字への転換がなかなかうまくできず、自分の思うように仕事を進められなかったんです。

山本 その後、テレビの世界に戻り、今度は東京のメトロポリタンテレビジョン(東京MX)へ転職されました。

小浮 はい。ただ、東京MXでもあまりうまくいかなかったんですね。いまでこそ親会社がTOKYO FMになり、随分風通しがよくなったと聞いていますが、当時は株主の意向が強く反映されていたテレビ局でした。報道の仕事をしていて、上層部から「これは公表するな」といった圧力がかかることも珍しくなかったのです。ですから上司と衝突ばかりしまして、そこも退職することになりました。大学を出てから10年あまりで3度目になったわけです。

山本 そしてイオン広報部へ入られた。

小浮 当時、イオンは急成長を遂げている最中で広報人材が不足していたんです。当時の広報担当の常務が私の大学の先輩だった縁もあり、入社することになりました。報道側から広報する側へと、180度スタンスが変わりました

山本 イオンはおよそ6年勤められています。水が合っていたということですか。

小浮 そうですね。企業広報のほか、社会貢献活動にも精力的に取り組みました。そして、リーマン・ショックも何とか乗り越えたところに発生したのが、東日本大震災だったんです。イオングループは、東北にも多くの店舗を展開しており、私は、被災地の支援活動に従事した関係で、地元の行政の方と接する機会が多かったんですね。また、多くの避難所も回ったのですが、そこで気づいたことがあったんです。

山本 どんな気づきを得たのですか。

小浮 私の印象としては、円滑に運営されている避難所は 元々のコミュニティがしっかりしていた場所にあったんですね。しかし、運営がスムーズでない避難所は、元のコミュニティの結びつきがやや弱い地域だったんです。

山本 その気づきが、地方行政に目を向けさせるきっかけになったと。

小浮 はい。そして運が良かったのが、その頃、本当にたまたま豊明市が「副市長の公募」を行っていたことでした。いまでこそ副市長公募は全国的にも珍しくない制度ですが、当時はまだ少なかったんですね。

山本 それにしても、果敢に応募されて、しっかりと合格して副市長になってしまいうところが素晴らしい。小浮市長は豊明市には何らかの縁があったのですか。

小浮 市役所から約6km離れた場所に



イオンモールがありまして、その広報活動をやっていたことから、豊明市の存在や、名古屋市のベッドタウンであることなどは知っていたんです。

山本 副市長に選出されたのは、何が決め手になったのでしょうか。

小浮 競争率が低かったのは、大きな要因だったのではないかと思いますよ。

山本 そんな自虐的な(笑)。

小浮 いえ本当に。現在、いろいろな自

治体で実施している公募には、少なくとも数百人、多い場合は1000～2000人単位で応募があるのですが、当時の豊明副市長募集には、50人あまりしか応募がなかったんです。最終面接には確か8人くらい残っていたと記憶していますが、そのうち半分ほどは県外の方でした。

山本 ともあれ副市長になられた。そして懸命に豊明市の地方自治に取り組まれたわけですね。その後、さまざまな方から支援を受けて、市長選に立候補。見事に初めての挑戦で当選をされている。すごいストーリーです。

小浮 選挙期間はおよそ2ヵ月間だったのですが、おかげさまで大役をいただくことができました。2期目は無投票で選んでいただき、今に至っています。私が市長に就任してからは議会との関係もうまくいっており、多くの議案が議会をスムーズに通過するようになって、安定した市政運営が続けられています。

山本 これまでの数々のお仕事や市長の発言をお聞きすると、市の職員を大切にされ、寄り添う姿勢も見えてきます。そのあたりも安定した豊明市政につな

がっているのではないのでしょうか。

小浮 ありがとうございます。

駐輪場を重要な交通結節点に変えた自転車駐車場整備センターの提案

山本 では、豊明市の交通施策に話を移します。今日、市役所に来る前、市内を巡回しているコミュニティバス「ひまわりバス」の車両を見かけました。市民の足として役立っているようですね。

小浮 東海地域の有力交通会社である名鉄グループの名鉄バスが、20年くらい運行を続けています。名鉄バスは市内にある名鉄名古屋本線の3駅のうち、市の玄関口となっている前後駅にも拠点がありまして、この駅と、全国でも早い段階からコロナ対策に取り組み、ひとつの医療施設としては日本最多の1376床を有する、藤田医科大学病院を結ぶ路線を持っています。この大学病院は病院関係者、学生、患者さんなど通院される方が大変多いため、路線バスはほぼ10分に1本の割合で運行しているんですよ。

豊明市主要3駅 駅前駐輪場リニューアル 画像提供:公益財団法人 自転車駐車場整備センター

前後駅 南地下 駐車場→駐輪場へ用途変更



山本 先月号の本対談欄で、新たなコミュニティサービス「チョイソコ」を話題にしたのですが、そのスタートが豊明市でしたね。

小浮 はい、トヨタ自動車系列で自動車部品の世界的メーカー・アイシンのサービスのサービスです。アイシンの本社は豊明市のお隣の刈谷市にあり、先方から実証実験を豊明市内で行いたいと打診があって、お引き受けしています。名鉄バスがあまり運行していない、高齢者が多い住宅街などでも運行してくれているおかげで、移動する足を持たないお年寄りを中心に高い評価をいただいています。

山本 外出が億劫になり、外部とのコミュニケーションが失われがちな高齢者の足代わりとなって運行するというのは、非常に有意義ですね。今春から条件付きで自動運転・レベル4が解禁となりますし、将来的にお年寄りの移動手段となるような自動運転車両が豊明市内を走ることも望みたいものです。

小浮 そうですね。いずれ自動運転化は進んでいくと思いますが、いまはまだ豊明市が、自動運転車両の走行環境を持

ち合わせていないのが実情です。導入まではまだ時間がかかるかもしれませんね。

山本 では次に、昨年10月1日、公益財団法人 自転車駐車場整備センター（以下「整備センター」）の運営によってリニューアルオープンした市内3駅の駅前駐輪場についてお聞きしたいと思います。私は、これも小浮市政の大きな成果だと認識しています。

小浮 ありがとうございます。

山本 オープンして約3ヵ月が経過しました。市民からの声や、市長の手ごたえをお聞かせください。

小浮 私が副市長に就任した10年ほど前から、市内の3駅の駅前駐輪場内は駐輪の状態が雑然としていて、入出庫がしづらいという問題を抱えていました。市内3駅のうち、中京競馬場前は市民の利用は少なく、前後駅と豊明駅に偏る傾向があるんですね。そしてその両駅の駅近くにあった市営駐輪場は無料だったので、場内整理はシルバー人材センターさんのスタッフに来ていただいていたが、勤務は平日朝夕のみ。途中の時間帯で利用される市民の自転車まではフォローできず、結果、駐輪位置の整理が追いつかない状況が長年続いていました。しかも屋根がなく雨ざらしでしたし、盗難事案も起きていたんです。いろいろな民間企業にお声がけをしてPFIを模索したりもしましたが、費用対効果の面でこの足を踏まれる場合が多く、長く豊明市が管理し続けていました。

山本 整備センターが参画することになった経緯を教えてください。

小浮 豊明市の北側にある日進市の、名鉄豊田線・赤池駅の駅前で整備センターさんが運営事業を営んでおられたんですね。そこで日進市を通じて打診し、豊明市の駅前駐輪場の調査をしてもらったところ「整備センターでお引き受けできます」との回答がありました。しかも、それまでに打診した民間企業と比べ、より高レベルの運営計画を提案されたんですね。金額、アフターサービス、すべての



面で納得できたので、もうこれはぜひお願いしましょうと。もちろん議会もすんなり通過したのは言うまでもありません。「この金額でこんなサービスが実現するのか」など半信半疑な声は多かったですけどね。リニューアルオープン直後こそ、一部の利用者の方に使い方に関して若干の戸惑いはあったようですが、概ね高い評価をいただきました。

山本 整備センターでは、自治体の要望に応じてBOT（建設・運営・移転）・BTO（建設・移転・運営）・RO（改修・運営）方式と、様々なメニューをもって駐輪場を建設・改修しますが、いずれも地元自治体の負荷低減が可能になる優れた手法だと思います。この手法を導入することによって、駐輪場が整備されてきれいになり、屋根がついて雨風をしのげ、防犯性も高まるのなら、例え有料化されても、市民の満足度は向上するでしょう。ある程度の受益者負担は必要だと私は思います。

小浮 有料化に対する反発は、本当に数えるほどしかありませんでした。市と整備センターさんが協働して、何度も事前説明会を開催したほか、駐輪場の自転車のカゴにリニューアルオープン情報のチラシを置くなど、周知に努めたことも奏功したと考えています。行きは家から自転車でやって来て駐輪場に駐輪し、電車

中京競馬場前駅南第1



豊明駅東第2



に乗る。帰りは、電車を降りた後、駐輪場から自転車を在庫して帰宅する。この動線が本当にスムーズになりました。

山本 駐輪場が重要な交通結節点であることが実証されたと思います。

小浮 本当にそうです。もっと早くこうすべきだったと思います。

バス路線沿いの駐輪場展開で市民の回遊性を向上させる

山本 続いて、豊明市全体の交通行政についてお聞きします。さまざまな公共交通ネットワークを一体的に形づくり、持続させることを目的に、令和4年度から8年度までの期間で「豊明市地域公共交通計画」を策定されています。この計画のポイントや課題などを教えてください。

小浮 豊明市の公共交通は、先述した名鉄名古屋本線の3駅が軸です。いずれの駅も、急行や準急が停車してほぼ20分台で名古屋駅に到着する利便性の高さが特徴です。そして、この3駅を強く補完するのが、先に申し上げた前後駅と藤田医科大学間のバス路線。さらに前後駅前にほぼ常駐しているタクシー、加えてコミュニティバス、チョイソコといったサービスが豊明市内を覆っているわけです。特に鉄道の名古屋までのアクセスの良さと、藤田医科大学へのバス路線の2つがあることは、名古屋市を除く県内の他自治体に比べて、圧倒的な優位性があると考えています。



市内を循環するコミュニティバス「ひまわりバス」。1乗車100円。バス停にあるQRコードを読むとバスの現在位置が分かるバスロケーションシステムが導入されている

歴史、自然…豊明市の豊富な観光資源 画像提供:豊明市観光協会



①②市内には、国指定史跡の「桶狭間古戦場伝説地」をはじめ、信長と義元にゆかりのある史跡が多数残る。歴史ロマンを満喫できる場所として高い人気を誇る ③市内北部の二村山につながる鎌倉街道。源頼朝、北条泰時、西行など優れた歌人の詠んだ和歌も多く残されている

山本 なるほど。

小浮 そして、この優位性があるバス路線に近い場所にある公共施設の駐輪場、例えば市役所、図書館などの駐輪場を、通勤・通学目的の市民の皆様に開放して使っていただくと、より移動の利便性が高まるのではないかと考えています。さらには、既存の公共施設の駐輪場開放に加えて、バス停近くの遊休地を駐輪場に転用することもひとつの方法だと思っています。

山本 首都圏では、道路法の改正によって新たな道路占用入札制度を活用した民営駐輪場の整備を進めている自治体も見られます。豊明市でもそうした駐輪場整備が進み、市民の皆さんのフットワークが向上するとよいですね。

小浮 そうですね。ともあれ、駅前の駐輪環境は大幅に改善されたので、今度はバス路線の近くの公共施設の駐輪場を交通結節点として活用していただこうと。そういった形でいくつかの公共交通、公共駐輪場を組み合わせていただき、ご自分の生活圏の中でのベストな交通を理解していただければと思っています。

山本 バス路線近くの駐輪場を枝葉の結節点に位置付けるとすると、そこにシェアサイクルを導入するお考えは？

小浮 そこまではまだないです

ね。豊明市と隣接している名古屋市の緑区においてシェアサイクルの普及が進み、利便性が認知されれば、豊明市にもその動きが波及してくるかもしれません。

山本 次に、自転車の走行空間の整備について教えてください。第2次自転車活用推進計画のもと、全国各地で自転車活用の機運が高まっていますが、豊明市ではどのような状況でしょうか。

小浮 前後駅から北に位置する市役所に向かう道路に自転車走行レーンを整備しています。ただ、現状ではそこにしか専用レーンがないんですね。というのは、市内の車道の幅が全般的に狭く、それに伴って自転車レーンの確保が難しいという問題があるためです。この背景には、豊明市が計画的に開発されたまちではなく、それこそ平安時代あたりから集落が点在しており、行政による区画整備以前から道路ができてしまっている事情が挙げられます。

山本 なるほど。

小浮 ただ、今後は自転車が走行しやすいように環境整備を進める計画もあります。例えば市内の間米町(まごめちょう)地区です。ここは先述した藤田医科大学に向かう学生が多く通る道路があり、自転車の利用率も高い。安全に走行できるように整備していく方向です。

山本 間米町をひとつの契機に市内の

自転車走行環境がより整っていくとよいですね。2025年にかけて、市内で新たに「柿ノ木工業団地」を開発されるとうかがっています。その新しいまちでも自転車走行環境が整備されるとよいのではと思いますね。

小浮 そのとおりですね。

公共施設再編と人流の変化で安全安心なコンパクトシティへ

山本 最後に、豊明市の将来のまちのあり方についてお聞きします。国は地方都市を中心に、コンパクトシティ、スマートシティの推進を掲げていますが、豊明市の受け止めはどうでしょうか。

小浮 我々もその方針に沿って、コンパクトなまちづくりを目指しています。元々豊明市はおよそ23km²の小さな都市であり、おまけに北側の3分の1の多くは農地が占めているので、残る3分の2が活動する市民の多い地域だといえます。物理的には既にコンパクトシティなんですね。まちづくりの方針としては、前後駅、市役所、さらに藤田医科大学病院手前のURの大規模団地である豊明団地の3つを拠点としてまちを再整備しようと計画しています。それに先駆けて、市立の双峰小学校と唐竹小学校2校を統合し、双峰小学校を全面改修して新設校とし、一方の唐竹小学校の跡施設は、豊明市共生交流プラザ「カラット」に再生しました。ほぼ1年前、2022年5月にオープンした、まだ新しい施設です。

山本 どんな機能を備えているのですか。



フランクな語り口と柔軟な考え方に触れ、「親しみやすい市長」であることを実感。市民団体のスタッフからは「今から打ち上げをやるけど来ない？」と「タメロ」で市長の携帯に、お誘いの電話がかかってくるというから驚きだ

小浮 誰でも使える憩いの場、ワークスペース、子育て世代の交流スペース、学生の自主学習や社会人のテレワークなどに活用できるフリースペース、児童発達支援センター、子育て支援センター、豊明市の歴史民俗資料室など、実に様々な機能を擁しています。

山本 素晴らしい再生施設ですね。多世代が交流し、新しい人の流れができたのだらうと推察します。

小浮 はい、おっしゃるとおり、多様な世代の市民が集まり、にぎわっているようです。ともあれ、先に申し上げたとおり、コンパクトな豊明市をさらにコンパクトにするまちづくりを目指し、自動車だけでなく自転車でも移動しやすい環境となるよう、施策を講じていきます。

山本 災害に強いまちづくりについてはどんな方針をお持ちですか。2000年に発生した東海豪雨では豊明市も浸水被害を受けたと聞いています。パーキング業界では、南海トラフ巨大地震等による

津波発生時や台風、集中豪雨による水害発生時の避難場所として、自走式立体駐車場の活用をPRする取り組みが行われているのですが、豊明市ではどのような対策を講じているのでしょうか。

小浮 南海トラフ地震によって巨大津波が発生したとしても、豊明市までは到達しない予測であることから、津波被害は具体的に想定していません。ただ、市東部を流れる境川流域は水害を受けやすい地域であり、ご指摘の東海豪雨の際には、事実、水害が発生しています。豪雨、あるいは直下型地震など大きな災害が起きた際の避難所は決して十分にあるとは言えないのが現状です。この改善については、さらに注力していかなければならないと考えています。

山本 分かりました。本日は駅前駐輪場の大リニューアルをはじめ、豊明市のさまざまな施策を教えていただき、大変勉強になりました。今後とも、よろしく
PP

聞き手：本誌編集長 山本 稔（やまもと みのる）

1959年神奈川県横浜市生まれ。1981年東京工芸大学写真工学部卒業。制作会社にて宣伝広告・商業カタログ等の写真制作に携わりながら1994年に独立し、デザイン・印刷・出版を主な事業とする(有)サン・ネットを設立。2010年より本誌編集長

過去の対談記事をWEBで公開しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

